

## まだまだ寒さは続きますが・・・ ～心が温くなる話題～

今年は2月3日が「立春」です。昨年までは2月4日でした。これは、地球が太陽の周りをまわる（公転）とき、1周がちょうど1年ではないため（365日と四分の一）、太陽と地球の位置関係が立春の位置になるのが、年によって1日程度ずれることがあるからです。暦の上では立春からは春となり、新しい季節を迎える前日を、季節を分けるという意味で「節分」と呼んでいます。



### 心が温くなる話①

ある学校に、建設会社に勤める男性から電話がかかってきました。その電話は、「資材の運搬のため一人でトラックを運転していたところ、何かのはずみで、積み荷が荷台から落ちてしまった。自分ひとりで片付けるのは時間もかかり、道路も渋滞してしまうと困っていたところへ、自転車に乗った丸刈りの高校生の一団が通りかかり、『手伝いましょう。』と言うが早いか積み荷を拾い集めてくれた。お陰であっという間に片付き、道路も渋滞も起こらずにすんだ。片付けを終えると、高校生たちは、学校名も名前も告げず風のように去って行った。後で、近くのコンビニで尋ねると、学校を教えてくれたので、よい教育をしていると思って電話した。」という内容でした。

この話は、雑誌に載っていたのですが、元はある県のホームページに「子供に伝えたい心に響くちょっといいはなし」として掲載されているそうです。

### 心が温くなる話②

これもある新聞に掲載された高校2年の女子生徒の行動です。自転車で下校中、道路に新聞紙や折り込みチラシが大量に散乱しているのに出くわした彼女は、一度はそのまま通り過ぎたものの、「何もしていない自分に辛くなった」と戻って来ます。はじめ古紙を自転車の前かごに積んで自宅に持ち帰ろうとしました。しかし収まり切らず、約500メートル離れたコンビニでゴミ袋を買って戻り、再び拾い集めたそうです。現場は交通量の激しい交差点で、青信号になるたびにひたすら拾い続けたそうです。見かけた人から管轄の警察署に「女子高生が落とした荷物を一人で拾っている。かわいそうだから助けてほしい」と連絡が入り、署員が駆け付けると、すでにごみ袋3袋分、計10キロの古紙が回収されていたそうです。どうやって持ち帰るかを考えていたところに警察署員が到着し、それを見て安心した高校生の目からは涙が流れたという内容です。

どちらの話も関係者だけでなく、それを聞いた人の心も温くなる、いい話題ですね。しかし、こういった話は、新聞やインターネットの中だけの話ではありません。

### 心が温くなる話③ <弓削中にもいますよ>

1学期のある日、下校指導のため町内を見まわっていた時のことです。歩いて下校中の男子生徒が、車の往来が途切れた時道路の中央に駆け寄り、そこに落ちていたいくつかのコンクリートの塊を拾って道路の端まで移動させ、その後また、何事もなかったように立ち去って行ったのです。そのまま、車やバイクが踏んでしまうと、パンクや転倒の原因になりかねません。他にも弓削中にはこうしたまわりの人の心を温かくする行動ができる生徒が大勢います。ぜひ、勇気を出して行動を起こし、さらに温かい心でいっぱい为学校にしていきましょう。



